



学校だより



心豊かでたくましく

自ら生きぬく子

・たくましい子

・思いやりのある子

・よく考える子

・はたらく子

すなおな えがお ひろがる

あいさつは 人の心を あげるかぎ

葛飾区立末広小学校 児童数 385名 校長 松本 清史 通算428号

https://school.katsushika.ed.jp/swas/index.php?id=suehiro_e

<令和5年9月29日>

十五夜に想う・・・素敵な日本語

校長 松本 清史

暑さ寒さも彼岸まで……。秋分の日を境に、確かに陽気が変わった気がします。朝晩は涼しい日が増え、気温が20℃程度になると咲くという彼岸花も一斉に咲き誇っています。

今夜は十五夜、中秋の名月です。毎月訪れる十五夜の中で、旧暦8月15日を中秋と言い、神様に感謝し、健康や発展を願う日と言われています。平安時代に貴族社会で月を見る風習が起こり、「月見の宴」が催されるようになったそうです。その風習は今でも残っており、お月見団子やススキ、秋の果物や秋の七草をお供えするご家庭もあるようです。学校でも、今日は「お月見献立」として、お月見団子が出されました。みんな嬉しそう、楽しそう、美味しそうで、どの学級でも「お団子のおかわり」に大盛り上がりでした。

日本には、「月」だけを考えても、様々な言い方があります。調べてみると、「新月」、「三日月」、「上弦の月」、「十三夜」、「下弦の月」、「満月・望月」、「立待月」、「居待月」、「寝待ち月」などなど、他にもたくさんの呼び方がありました。かつて日本人は、様々な表情を見せる月に、出てくる月の気持ちになったり、待ちくたびれる人の気持ちになったりしながら呼び名を付けてきたのでしょう。

日本には素敵な言葉があるなあと思いを巡らせていると、ふと、「雨」にもいろいろな言い方があることに気がきました。「梅雨」、「雷雨」、「霧雨」、「土砂降り」、「通り雨」などは、よく使われる言い方です。他にどんないい方があるのか、これも調べてみることにしました。すると、なんと100以上の表現が見つかりました。

春の雨として「小糠雨」、「雪解雨」、「春時雨」。夏の雨として「穀雨」、「瑞雨」、「青葉雨」、「土用雨」。秋の雨として「秋時雨」、「秋入梅」、「秋時雨」、「秋霖」。冬の雨として「解霜雨」、「鬼洗い」、「山茶花時雨」、「凍雨」。他にもたくさんあります。

「月」や「雨」に、どうしてこんなにもたくさんの言い方があるのでしょうか。昔から日本人は、自然に畏敬の念を抱き、自然を愛し、自然と共に生きてきたのでしょう。「月」を「雨」を慈しみ、大切にし、共に生きてきたのです。「月の満ち欠け」、「雨の強弱」、そんな一つ一つを大切にしながら、名前を付けていったのだらうと思います。一つの事象にこんなにたくさんの素敵な言い方があるのは、日本語だけかもしれません。言葉は文化です。時代とともに移り変わっていくものでしょう。近い将来には「ら抜き言葉」が標準語になっているかもしれません。それでも、古くから言い伝えられる、思いや願いがこもった美しい日本語の言葉一つ一つを大切にしていきたいと思っています。

さあ、今夜は十五夜、満月の中秋の名月です。しばし手を休めて、ご家族で空を見上げてみるのはいかがでしょうか。

中秋の名月は満月になるとは限らず、次に中秋の名月が満月になるのは7年後の令和12年だそうです。今夜は晴れてくれますように……。